



なほま 市民の友

第780号毎月1回発行
2016年(平成28年)

1月

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2015(平成27)年11月末現在	
総人口	324,114 (3,599)
男	157,207 (2,087)
女	166,907 (1,512)
世帯数	147,147 (2,434)

発行：那覇市
編集：秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎(代表)867-0111
印刷：有限会社サン印刷

謹賀新年

いー正月でーびる

「猿に絵馬」

はいたい ぐすーよー いーそーぐわちでーびる。
 「猿に絵馬」んでい「いくとぅば」ぬあいびーん。
 「いっぺー じょーとー とぅやーしむん」でい意味なとーいびーん。
 くとぅしや申年なとーいびーしが うぬ「いくとぅば」ぬぐとぅし
 市民ぬちゃーぬいるいるな力 とぅやーさーにかい
 「協働によるまちづくり」ししみていいちゃびらやーたい。(※)

さて、複雑・多様化する現代社会では人材育成こそが、さまざまな課題の解決に向けてのカギを握っていると考えます。今から220年ほど前、第15代琉球国王・尚温も、四方を海囲まれた小さな島国では人材育成こそが肝要だという思いを「海邦養秀」という言葉に表しているほど「人材の価値」には図り知れない魅力が溢れています。

今年も職員の人材育成、地域で活躍する人材のネットワーク化や活躍の場の創出に努め、「協働によるまちづくり」を通して、那覇市が風格ある県都としてさらに大きく発展していくために、頑張ってもらいます。

あきまどうしん(新年) ゆたさるぐとぅ うにげーさびら。

平成28年1月1日 那覇市長 城間幹子



※「猿に絵馬」ということわざがあります。「とても良い取り合わせ」という意味です。今年は申年ですが、このことわざのように、市民の皆さまのいろいろな力を取り合わせて「協働によるまちづくり」を進めていきたいと思います。



公私 連携型認定こども園

特色ある園づくりを目指す



識名こども園
連携法人(社会福祉法人 弘文会)
上原ヨシ子さん(現:いしだ丘保育園園長)

私たちの園は繁多川に約40年、三世代の関わりから、地域とのつながりの重要性を感じています。子育て相談をとおして信頼関係を育み、余裕ある子育て環境がつけられるよう地域に根差した園を目指しています。また、武道の心をとおし、「体」「知」「徳」をバランスよく育み、子ども達の健やかな成長を一緒に歩んでいければと思っています。

武道で「体」「知」「徳」を育む

「公」と「私」が連携する、初の認定こども園が今年4月にスタートします。

開園目前にせまった連携4法人。市と協議を重ねながら「私」の個性が発揮できるようチャレンジしていきたいと園の特徴と抱負を語っていただきました。



銘苅こども園
連携法人(社会福祉法人 報徳福祉会)
立津佳則さん(現:童の城保育園園長)

子どもは親が喜ぶ顔が一番うれしいのです。その笑顔がやる気につながり、「ひと言」で子どもの成長は劇的に変わります。私たちの園では、保護者に会話の大切さを伝えられるような園づくりを目指しています。そして、子ども達の安全を守るには、地域の目が大切です。地域に開けた園づくりを目指し、『わたたーまちのこども園』と言われるようになりたいです。

やる気につながる言葉かけを

主な紙面

- 新春あいさつ/特色ある園づくりを目指す……………1
- 新型インフルエンザのパンデミックに備えて/その他……………2
- 二度の危険行為で自転車運転講習命令/その他……………3
- 年明けから沖繩の伝統・文化を感じよう/その他……………4
- 情報バック……………5
- 博物館トピックス/ニュースダイジェスト……………8

お問合わせ先

NAJも政策課 ☎091・2110



若狭こども園
連携法人(学校法人 大庭学園)
大城敏美さん

子ども一人ひとりの主体性を引き出し導けるように、家庭・地域・園が一体となり、子どもの変化に柔軟に対応できる人材・体制づくりを行っています。きたいと思っています。

心は豊かに 技は確かに

私たち社会福祉専門学校は、専門的な知識や技術をもった人材が豊富です。教育・保育目標に「豊かな心」を持ち、考えて行動するたくましい子を掲げ、子ども達が集団の中で心地よく過ごせる環境作りに努めます。また、



さつきこども園 連携法人(社会福祉法人 わかめ福祉会)
饒平名志子さん(現:おろく保育園園長)

子どもはどの時期にも、とても敏感に反応する時期があります。例えば、ある物を懸命に並べ続けたり、階段を何度もかけ上ったりするなど、それを「敏感期」と呼んでいます。その時期を大切にすることで気持ちの満足につながり、心の豊かさにつながると思っています。私たちの園では、感受性が豊かな時期にいろいろな経験をして育んでいきたいと思います。

こどもの「敏感期」を大切に

子どもはどの時期にも、とても敏感に反応する時期があります。例えば、ある物を懸命に並べ続けたり、階段を何度もかけ上ったりするなど、それを「敏感期」と呼んでいます。その時期を大切にすることで気持ちの満足につながり、心の豊かさにつながると思っています。私たちの園では、感受性が豊かな時期にいろいろな経験をして育んでいきたいと思います。